

平成 19 年 第 6 回行財政改革推進市民委員会 論議要旨

1.日時 平成19 年10月19日(金) 9：30～11：30

2.場所 市役所10 階第5 会議室 A

3.出席委員 秋江委員、伊賀委員、石橋委員、一の渡委員、太田委員、小椋委員、
久保委員、小池委員、瀬尾委員、仙北谷委員、中野委員、村上委員、
矢野委員、山崎委員
(以上14 名、欠席：菊池委員)

4.論議要旨

事務局 ただいまから第6回行財政改革推進市民委員会を開催させていただきます。
委員長 皆さんの知恵を絞りながら、意見を出していただき、ありがとうございます。
す。この意見を最後に取りまとめて、今日は抜けているところ、追加するところを審議しながら、最後の仕上げをしたいと思います。

それでは、『新たな行財政改革に対する意見のまとめ(素案)』について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (『新たな行財政改革に対する意見のまとめ(素案)』に基づき事務局説明)
委員長 『(1) 民間委託等の推進』は、プラス面、マイナス面両方を兼ね備えています。何もかも民間委託がいいかと言うと、必ずしもそうではありませんので、そういったところの問題点も出していただければと思います。

A委員 上司から「やれ」と言われると、他から強要されると、あまりいい気持ちでない。それよりも大事なことは、自分から努めて「次は何をやる」と自発的にやっていくと、腹が立たないものなのです。ということで、モラルの高揚に努めることを推進していくように、ご配慮願いたいと考えています。カタカナの横文字は入れないで、こういう言葉は避けるようご配慮願いたいと考えております。

委員長 カタカナの文字を少なくする。これは、わたしも同感でありまして、市民に分かりやすい言葉に置き換えるというふうに配慮させていただきます。

B委員 民間への委託は、客観的じゃないとチェック出来ないと思いますね。やっぱり、インターネットとか、映像とか、携帯とかも安く手に入る時代だから、市も行政として客観的な資料を瞬時に集めてやれる可能性もあるのではないかと、アンテナを上げながら、そういうことを客観的に集約しながら指導して

いくことも、だんだん委託が増えるだけに個人的な監督感の考え方でやられるよりは、平等性と公共性があるのかなと思いますので、是非そういうことも検討していただきたいと思います。

委員長 民間委託する場合には、それなりのバックアップ体制を取っておかないと、ただ民間委託と行政的にはスリム化されたということにはならないような配慮が必要かと思います。

C委員 外部委託は、経費の削減等いろいろありますけど、それだけ市役所の方々の管理体制が忙しくなると理解していただかないといけないと思うのです。外部委託すれば、人数等は減りますし、安くなるかもしれませんが、その分、細かな気配り、チェックが必要で、市役所の職員の方々の責任と、仕事の重さが出てくると思います。

委員長 そういう面からいきますと『(2) 行政の監視、指導体制の整備・充実』が、委託すればするほど非常に重要になりますね。

C委員 そのようなことを行政の方に理解していただかないと、外部委託は出来ないと思います。

委員長 お話しのとおりです。市として、こういう問題に対してのバックアップ体制は、あるのでしょうか。

事務局 指定管理者等を導入していきまして、その分については各課におきましてチェック体制を取っておりますが、各課独自でやっているということがございまして、帯広市の一つの基本的なマニュアルを整備する必要があるだろうと考えております。

委員長 そうすると、横の連絡網をきちっと整備するという文言を入れておいたほうがいいのかもかもしれませんね。

C委員 横断的な連携が無いと、思ったとおりに進まないだろうと思います。

事務局 横断的ということになれば、通常を含めて連絡体制を取りながらやっていくということも、今後考えていかなければいけないと考えています。

委員長 民間委託の推進及び行政の監視、指導体制につきましては、これでよろしいでしょうか。

それでは『2 時代の変化に対応可能な「行政運営の構築」』『(1) 市民協働』ということで、沢山の意見が出た項目であります。何かご意見ございますでしょうか。

B委員 やっぱ行政は、市民、企業、団体に情報を流す義務があると思うのです。一緒にやりたいのなら、積極的に呼び掛けていく、その拠点をどのように実現していくのか。集まる場所があればいいのです。ただ、それをどこに指定するかっていうことは、住民と行政が話し合っ決めていいことです。今はインターネットの時代ですし、情報はたくさん集まります。

いろいろな提案がありますが、みんなの共通理解になるように、整理して提案をしないと、読んだ市民が理解出来ません。注釈を付けてあげるとか、そういう親切さも必要です。

委員長 この項目の中で、おっしゃった「市民協働マネージャー」とか、「システム」とか、これを集約、活躍出来る「プラットフォーム」は提言されておりますけど、具体的にそれが何を目的にされているか、少し説明不足のところがあると思います。人材育成、情報交換するプラットフォームがなぜ必要なのか、そしてそれは我々の市民生活にとって、どれだけの重要性を持っているかということも入れた文言も入れて項目立てをしていけば、将来に対する我々の意見を具体化させる提言になると思うのです。

D 委員 とかちプラザで環境のフォーラムみたいのがありましたよね。ところが、同じ日に藤丸でも同じようなイベントがありました。そういうことであれば、一緒にやれば良かった。藤丸には、ほとんどお客さんがいなかったのです。とてももったいなくて、もっともっと効果を上げられるのに、それがまさに協働だと思うのです。

委員長 委員のお話しのとおりですね。

E 委員 消費者協会も「同じような趣旨のものを藤丸でもやるの？」と言うぐらいなのです。同じものが 2 つに分かれてしまう、それをまとめるのが役所のはずです。それがバラバラで、自分たちの分だけ追求して、行政はこなせばいいと考えているから、こういうことになるのではないかと。まるで花火の打ち上げですよ、あっちでもこっちでも。だけど、参加する人は、あっちもこっちも行けません。全体の調整をするのが役所じゃないかと思うのですけど、そこが抜けている。それぞれが自分のところの人数、企画があればいいという考えに終始しているのではないかと。少々頭にきています。

委員長 各課バラバラにやっている。そうすると、無駄なお金を使ってしまう。そういうことが無いように、情報が集約されて、練られて、それで催しが開かれるということ、このあたりを是非『新たな行財政改革に対する意見のまとめ（素案）』に網羅していく必要があります。統一した組織を立ち上げて、横の連携をきちっと出来るシステム作りが必要になってくるかと思うので、是非それは今後に向けてのシステム作りという意味で、意見の中に入れてたいと思います。

C 委員 国からくる予算と市の予算とぶつかっていませんか。市だけの予算で食育、エコに関してやっているのか、それとも国から市に回ってきてやっているのだろうか。そこら辺が見えないところがあって、市だけで計画してやっているのであれば、今言うように出来るのですね。ところが、厚生労働省なり経済産業省の事業があると思うのです。それって、ものすごく短い時間に「や

んなさい」と言ってくる場合があると思うのです。そうすると、フォーラムがぶつかっていく。それを丸める仕組みが市にあれば、今の問題は解決するのですが、独立して帯広市として主体的にやっていく場合に、やらされるままでは 100 年たっても解決しないはずなのです。ですから、仕組み、仕掛けを市としてどこまで考えられるのか、というのが問題を解決する一番大きなポイントだと思うのです。

B 委員 全国では、みんな知恵を出して、話し合っとうまくやっている。そういう知恵を出せば出来ることを最初からあきらめている。全国的にどんなことをやって、どうやっとうまくやっているか、そして成果を上げているか、これは分かることです。

C 委員 参加する方は決まっているのです。行かない方はずっと行っていませんから、行く方は招集が掛かって行きますから、町内会でも PTA でも一緒です。だから、何の会でも同じ人が集まることが多々あるのです。そのところを、行政は、上手におやりになることは、それが一番の行革ではないか。

事務局 組織機構を見直したとき、市の内部の横の連絡をどうするかというのは、庁議がありまして、庁議の中で重要なものについては各部の意見を聞きながら決めていくこととしていますが、各部に、自分の部の内容を押さえてやるための専門のセクションを設置しました。それを企画調整監としておりまして、企画調整監が定期的に集まり、企画調整監会議をやるようにしています。

もう 1 つは、市民協働の関係があるのですが、市内にいろいろな団体、サークルが、目的別に出ています。似たような団体が沢山あります。必ずしもそこがお互いの情報を共有しているということではないのですが、それを行政がひとまとめにしてコントロールすることがいいかどうかという問題もあるのです。

委員長 大変大きな課題なのでしょうけど、要するに市という大きな行政の単位と、市民が自発的に作って活動する、二つの領域があると思うのです。

それから、企業からの支援が、前に挙がっていましたが、どうすれば企業としては支援しやすいとか、ある環境が必要かと思うのですが、効率を上げていくための環境という点で、何かご意見はありますか。

C 委員 うちは、子育て支援企業なのですが、市から来るシール、ハンドブックは少ないのです。本当にやるとしたら、うちには女性が 100 人もいますから、100 冊いただければ全部に配ってお話し出来るのですが、10 冊ぐらいだとどうしようもありません。だからその辺が、例えば子育て支援企業に冊子を作って周知をしたいということであれば「どういうふうに周知したいから、どのくらい必要ですか」と、ちょっとご相談していただくと嬉しいですね。結局は、会社としては、いい市民、いい親がいけないことには企業の繁栄もあり

ませんから、そういったところでやっているんですけど、いろんなところからいろんなものが来ますから、それをどう振り分けるかとか、難しくて、どっちかをやったら、どっちかをやらなければいいなあと思っているのです。だから、企業を巻き込むときは、企業が迷わないように地ならしすることが重要です。

委員長 ある程度の地ならしが必要だと言うことですね。

E 委員 ボランティアと言いましても、今個人でなさる方は団体に入っている場合が多いですから、個人のボランティアか団体のボランティアかということで、出すところも、お手伝いするところも変わってくる場合があるのです。今「日中ボランティアを完全にしますよ」と言う方が何人いるかということになってしまうと、個人のボランティアを当てにすることは皆無じゃないかと思うのですけど、ここの押さえ方が、ボランティアと言葉で一括表示されちゃっていて、正体がよく分かりません。

事務局 この意見の中では福祉、ここの部分をもう少し分かりやすいように整理させていただきたいと思います。

委員長 この項目立てについては、今日の意見も踏まえて、また、例えば「情報の提供」だけじゃなくて、収集して「収集と提供」というふうに二本柱を立てるとか、そのようにまとめたいとも思っております。

それじゃ、『(2)行政情報の提供』という項目は、いかがでしょうか。先程から市のほうの提供がまだ不十分とか、意見が出ておりました。

B 委員 4 ページに『(3)積極的な広報・広聴機能』とあるのですが、ボランティアの窓口が、どこにあって、そこに行けば相談に乗ってくれるよという場所があれば非常にいいと思うのです。

委員長 次に『(5)市民の意識改革』、これをどういうふうにして実のあるものに出来るのかということではいかがでしょう。

F 委員 帯広市の職員一人一人は広報マンという考えが必要だと思います。

市の公用車に課の名前を入れたらどうでしょうか。公に動いている車両ですから、乗っている方ももちろん市役所の職員です。一台一台の車両が帯広市の顔になると思うのです。市民にとっては、いろいろなことを聞く場面が増えます。

事務局 車両につきましては、基本的には各課で運用している物と、総務課が共用車として保管して必要の都度各課が使うような形で運用しています。

今公用車の運用については、行革の中で効率的な運用をしていくという見直しを進めているところでございます。例えば部単位でやったらどうか、そして部単位以上に帯広市が持つのではなくて必要なときに企業から借り受けるというやり方など、そのような形で見直しをしていますので、今の段階で、

出来れば各課で持っている部分に名前を付けるということも、市民の皆さんにとっては分かりやすいのですが、見直しの途中だということでご理解いただきたい。

G 委員 市民の意識改革で、先程民間委託の関係で除雪が話題になっていましたよね。除雪が民間委託されて、随分とやり方が雑になったというお話がありましたが、雑になった原因は、どちらを取るかという問題があります。「少しは雑でも安いほうがいいのだ」という考え方もありますから、一概には言えないと思うのですが、市民の意識、例えば(5)番の の中に『雪かきなど身近なことは自ら行うとか、協働の精神が小さい時から創られると思います。』とあります。だけど自分で行った雪かきで、雪を道路へ出してしまう人もいます。市民のモラルとすごく関係があると思われるのです。それを行政のせいとか、民間に委託したからそうなったとかということでもって片付けてしまうのはどうか。我慢する部分を我慢して、その分をどういうふうするのだったてことは、地域なり自分なりで考えて、やっていかなければならない部分が結構あるのではないかと思います。

委員長 やはり、市民のモラルと、何でも行政にお願いするのではなく、自分たちが出来る範囲のことは自分たちでやるという意識を育てていくような環境づくりが必要だと思うのです。

H 委員 赤い羽根共同募金に、今年は幼稚園生、小学生が募金に出ていたのだそうです。この活動は、人を思いやる誇りとか、そういうときから植え付けるとすごく良いと思うのです。今すごく凶悪な犯罪が増えていますけど、人間が昔に比べて命を思いやる心が無いので、そういう心を教育のするのが大切です。小さいときから、そういうことが身に付く行動を実行していく仕組みがあったらいいなと思います。

委員長 そうすると、市民の意識改革は子育てからということですね。

H 委員 市民だけでなく、人全体が「お母さん教育」とか「子どもの教育」とか、そこから始まるのではないかと思います。

I 委員 赤い羽根共同募金をすると小さいお子さんは寄って来るのですよ。お母さんが引っ張って行ってしまふのです。

H 委員 そういう経験をした年寄りの方が入れますね。やっぱり人間が荒れていますね。そこから始まるのでないか。

C 委員 市民協働の意識改革のところで、学校も小さい方もいいのですが、市としては、そういうことをやった人を褒めていただいているだろうか。褒めてあげるインフォメーションがあれば、また少し違うのではないかと思います。

委員長 情報の提供という項目が出ていますが、広報の中に「小さな芽」というこ

とも入ってくる。

I 委員 募金などで、高校生、中学生は、少し褒めると、「ご協力ありがとうございます」と言うと目がキラキラしているのです。そういうのを見ると、褒めて育てることもかなり必要かなと思います。

委員長 市民の意識改革は、まず小さなときから養っていく心遣いが必要だということを検討させていただきます。

G 委員 わたしは個人的に役所の職員の人事異動について、端的に言って、むやみな人事異動はすべきでないという考えです。専門的に、出来ればこの自治体の職員にも、この分野においてはエキスパートだという人たちがいてくれることが市民にとっては一番効果がある。「この人の所へ行くと本当に頼りになる」という人材が出来上がってくれることを、わたしは望んでいます。

委員長 この問題は、非常に難しいところがあって、行政としてはマンネリ化を防ぎたい。いろいろ問題があるのです。

事務局 市も、特に農業、区画整理のセクションとか、産業政策、地域開発、そういう所に関連の深い職員は、どうしても長く居る傾向はあるのです。それが、いい効果を及ぼす場合もあるのですが、逆に内部の人が育たないということもありまして、新陳代謝も図っていかなければいけません。人事はすべての人が喜ぶようにということは、中々難しいのです。ただ、考えているのは、やはり職員は宝、人材は宝だという理解をしていますので、その人がいかに適材適所に配置されて、市民のために役に立つ仕事をしていただける、そういう視点で配置しております。

B 委員 組織機構の項目で、市役所内に「フロアマネージャー」を設けて、要件処理をスムーズにさせるシステムがこれから必要だと考えます。具体的にフロアマネージャーのような人が市役所の組織の中にいて、うまくいっている所があるのかどうか聞きたいのです。

事務局 フロアマネージャーという発想について言えば、ISO9001 を、戸籍住民課と国保課という 1 階にある職場で進めています。それは、お客さんが満足してくれるようなサービスが出来るか、その向上のためにいろんな知恵を絞っています。市民アンケートや受付時間を短くするにはどうしたらいいかですか、いろいろなことをやっています。そういう発想の中から、受付の中で対応はかなりのレベルにいくのですが、実際には受付まで来られないお客さんを行政側から進んで声を掛けて的確にご案内出来るかというのが、次の段階に入ってきています。これまでのように声を掛けられるのを待って動くのではなくて、職員が積極的に声を掛けて的確にご案内をしていくということです。

D 委員 総合案内に立っていらっしゃる方は、お行儀良く「おはようございます」

と言っていただきます。お客さんは不安で市役所に入って来るので、「何かお困りなことはありませんか」その一言がとってもありがたいですね。

委員長 そのほかに無ければ、『3 持続可能な「行財政基盤」の確立』に入りたいと思います。この網羅される意見について、ご意見がございましたら、発言して下さい。

J 委員 カード決済で市町村の納税が可能となったニュースを見ました。帯広市が納税のカード決済化を推進しているかお聞きしたい。

事務局 様々な納入方法について、帯広市でもコンビニ納付とか、市民の皆さんの利便性を高めるための取組を行っています。カード決済については、担当課から、検討しているお話は聞いてございませんが、法的に税がカードで対応出来るかを含めて、確認させていただきたいと考えています。

委員長 諸外国でも、やっているところはあるでしょうか。その辺りを調べていただきたい。

K 委員 以前、議会に頑張してほしいという話をしまして、そのところに関連して、将来に対する不安というのが、漠然とあるのです。以前の会議の中でも「帯広市は夕張のようにはなりません」といろいろな指標を出していただいて、説明していただいて、それはそのとおりだと思うのですが、もし夕張のようになったときに、だれが責任を取るのか明確じゃない。なにか問題になったときに、だれが責任を取るのか非常にはっきりしないのが、今の政治、行政の仕組みだと思うのです。今、破たんしてしまったときに、国、市がどちらも責任を取らなくて、一番痛い目に遭っているのはそこに住んでいる人なのです。社会的弱者と言われる人ほど、一番負担が大きくなって「最高の負担で最低のサービス」とされて、結局意思決定に全然関わっていない人が一番割に合わない仕組みになっています。

議員、市長を選んだのは市民の責任だから、市民が責任を取るのはいしょうがないとは言えるのかもしれませんが、それにしても、理不尽な部分というのがあるという気がして、そこが夕張も帯広も同じだと思うのです。夕張の問題でもないし、帯広の問題でもないと思うのですが、それを何とかしてほしいなって思ったときに、議会に頑張ってもらわなければならないと思います。

今回の市民協働の話ですけど、今具体的にどの部分の協働を進めるか、どの部分を市民に負担してもらうっていう具体的な話は無くて「そういう方針でいきましょう」ということですから、やっぱり判断をする議会が、それぐらいの心構えを持ってもらわないと困るのです。

責任の取り方と、意思決定とリンクしていないと、意思決定はするけど責任を取らないことは、好き放題やり放題です。逆に、口出し出来ないで責任

だけ取らされるとしたら非常に理不尽な話です。責任と意思決定は、リンクしていないと、うまくコントロール出来ないと思うのです。ですから、十分な議会のモニタリング、チェックがあることが保証されたうえで市民協働の方向に進んでいくのであれば、それはそれでしょうがない。そういう意味で議会の人に頑張ってもらいたい。

委員長 議会に対する要望事項として、議会のスリム化と効率化、そして責任を明確にするという項目を一つ設けたらどうか。行政改革で行政側ばかり網羅されていますけど、肝心要の議会が空白状態なのですね。そういう意味で、今委員がおっしゃったように、議会に対しても我々はきちとした要望しておく必要がある。皆さんいかがでしょうか。

E 委員 『その他』ではなく、「議会へ」という項目があったほうがいいです。

委員長 まとめたのは、あくまで議会にということではなくて、今こういった問題を我々は提言しているが、それをどうするかは議会が考えることです。

B 委員 議会に対しても我々は住民という立場であれば、当然ものを言っていきたいと思います。取り入れるかどうかは議会の責任です。

事務局 議会の関係ですが、この 4 月に改選期を迎え、新たな議会が結成されました。今まで無かった事項として、初めて議員の定数について議会内部から検討事項に加えようという流れがあります。それから、新聞等でご覧になったかと思うのですが、議会基本条例という、そう多くはないのですが、議会の本筋に基づく部分の条例を、議会自らが設定しようということの検討も行っていくようであります。

委員長 わたし自身は『その他』の項目よりは、市民もこういう考えを持っていますよということで、一項目起こした方が良くと思います。「我々市民はこう思っていますよ」という意思表示としたい。

事務局 議会は独立した機関ということで行政側がどこまで関与出来るかということについては、議会は議会で決める部分がありますので、今回の中に盛り込むのは 1 つの意見として、議会側のスリム化、効率的な議会運営をしてほしいということは差し支えないと思うのですが、そのことによって拘束力を掛けられるかって言うと、そういうものではないということだけを申し上げます。

委員長 この委員会を立ち上げたときから、これをすべて拘束されるものではない、「わたしたちは、こう考えていますよ」という意見を集約して提出することですので、意見の取りまとめ、そういう意味になっています。

最終的な文言は整理して、皆さんにお配りして、それを検討したうえで提案というようにしたいと思いますので、是非、パブリックコメントは 11 月頃にございますけど、それまでに提出したいと思っています。たぶん、もう 1、

2 回意見のやり取りがあるかもしれませんが、完成版につきましては、皆
さんのお手元に最終的に届くようにいたします。

事務局 わたしから、お礼を兼ねまして、最後にお話し申し上げます。今年も非常
に短い期間でご論議をいただき申し訳なかったと思っておりますけど、皆さ
んから様々な意見をいただきましたので、これを是非新たな行財政改革実施
計画策定作業の参考にさせていただきたいので、よろしくお願いします。本
当に皆さん長い間ありがとうございました。

委員長 どうもありがとうございました。

一同 ありがとうございました。